

スペイン語系クレオール語

1. 世界の主なクレオール語

地域・国	名称	基礎言語	上層言語	位置づけ
マルティニク、グアドループ島	クレオール語		フランス語	公用語
セーシェル	セーシェル・クレオール語 (話者7万3000人)		フランス語	公用語
ハワイ	ハワイアン・ピジン語 (話者60万人)	ハワイ・ピジン英語	英語	口語
ルイジアナ州	ルジアナ・クレオール語	同地域のケイジャン・フランス語とは異なる	フランス語	口語
ジョージア州	ガラ語	西アフリカ、中央アフリカ系の言語	英語	口語
ハイチ	ハイチ語(話者はハイチ国民の85%の850万人)		フランス語	公用語
モーリシャス	モーリシャス・クレオール語 (話者120万人)		フランス語	共通語
レユニオン島	レユニオン・クレオール語 (話者60万人)		フランス語	口語
カボベルデ	カボベルデ・クレオール語(話者40万人)	南側のサンビセンテ島のソタヴェント・クレオール語と北側のサンティアゴ島のバルラベント・クレオール語の2種類ある	ポルトガル語	共通語
ギニアビザウ	ギニアビザウ・クレオール語(第1言語話者16万人、第2言語60万人)	ギニアビザウとセネガルの一部で使用される	ポルトガル語	共通語
サントメ・プリンシペ	フォロ語(話者7万人)		ポルトガル語	共通語
同上	ンゴラ語(話者5000人)		ポルトガル語	
同上	プリンシペ語(話者は1999年)		ポルトガル語	

	200人)			
赤道ギニア	アノボセネ語(話者 5000~6000人)		ポルトガル語、スペイン	
中央アフリカ	サンゴ語(1960 年代に形成、話 者約500万人)	中央アフリカ、チャド、コン ゴ民主共和国で使 用される	フランス語、ソンデイ語	公用語
オランダ領アルバ、キ ュラー、ポネール島	バピメント語(話 者33万人)	基礎言語の60%が ポルトガル語、スぺ イン語、25%がオランダ語、 その他アラク語、西ア フリカ語等	ポルトガル語	公用語
スリナム	スラン語(話者40 万人)	オランダ語を母語とし たジャリ語とヒンドゥスター ニー語と中国語の話 者の間で成立	オランダ語	
シエラレオネ	クリオ語(母語 話者34万人)		英語	共通語
ジャマイカ	ジャマイカ・クレオール語 (話者は420万 人)	パトワ語(17世紀に クレオール化)	英語	
ピトケアン諸島	ピトケアン語 (話者50人)	死語、英語の各方 言	英語	共通語
ノーフォーク島(オース トラリア)	ノーフォーク語	ゲール語、ポリネシア語、 英語の各方言	英語	共通語
バヌアツ共和国	ビスラマ語(話 者1万人)	メラネシア・クレオール語。バ ヌアツとニューカレドニアで 使用	英語、フランス語	共通語
パプア・ニューギニア	トク・ピシン語 (第1言語話者 120万人)	パプア諸語、メラネシア系 言語	英語	共通語
マカオ	マカオ語(話者 1977年4000人 →2000年50人)	マレー語や広東語、シハ ラ語、ポルトガル語及び 若干のスペイン語とイ タリア語の影響を受け て混合化	ポルトガル語、広東語	口語
フィリピン(ミン ダナオ島西南部)	チャバカ語(第1 言語話者61万 人)	オーストロネシア語	スペイン語	サンボアン カ市公 用語
台湾	寒溪秦雅語(宜)	タイヤル語	日本語(語彙は	

	蘭クレオール語)		70%が日本語、 30%がタイル語)	
小笠原諸島	小笠原語	英語	日本語	方言
スリランカ	ヴェッダ語 (1997年以前に 消滅)	先住民ヴェッタ人の 言語	シンハラ語	
インドネシア、スリランカ、 マレーシア	ベタウィ語等マレー 語基盤クレオール語	オーストロネシア語	マレー語、シンハラ語、タミ ル語等	
オーストラリアココス諸 島、マレーシアサバ州	ココスマレー語(話者 4000人)	ベタウィ語(マレー語系ク レオール語)	マレー語等	

2. オランダ領カリブ諸島のパピアメント語

(1) パピアメント語の由来

*オランダ領カリブ諸島のアルバ島(人口10万人、2002年)、キュラソー島(人口14万2000人、2010年)、ボネール島(人口1万5600人、2010年)にスペイン語系クレオール語のパピアメント語が存在(キュラソー島ではパピアメント語、ボネール島ではパピアメント語)。使用人口は26万3200人。話者のほとんどが2言語もしくは3言語話者。アルバ島では2003年に、キュラソー島とボネール島では2007年に公用語化された。文法的な正書法は1976年に確立された。

*文章化されたパピアメント語の見つかった文章は1775年に書かれた書簡が現存する。このためパピアメント語は200~500年の歴史をもつものと推定されている。

*語彙が主にスペイン語に由来すると思われるクレオール語で、それがポルトガル語、アラワク系の先住民語、種々のアフリカ系言語が混合している。この言語は、アフリカから連行されてきた黒人奴隷がアフリカから持ってきたアフロ・ポルトガル系のクレオール語を基盤にして、その後ブラジルのオランダ語系奴隷を持ち込んだセファルディ系ユダヤ人によって強化され、その後地理的環境からベネズエラやコロンビアとの近接性から特にスペイン語の大きな影響を受けて発展したものと推定される。

(2) オランダのセファルディ系ユダヤ人

*オランダのセファルディ系ユダヤ人は、1492年にスペインを追放されたセファルディ系ユダヤ人であり、特にアムステルダムに定着してオランダの大西洋商業活動を担った人々であり、1630年にオランダがブラジルのペルナンブーコ地方を占領したときにユダヤ系移民をもたらし、その移民たちが1654年にポルトガルによって一掃されたため、オランダ領のカリブ諸島(オランダ人は1534年にキュラソー島を、1636年にボネール島を占拠)、ギアナ(現在のスリナム)、および北米のニューアムステルダムに転住したとされる。

3. フィリピン・ミンダナオ島のチャバカノ語

(1) チャバカノ語の背景

*1521年にマゼラン一行がフィリピンのセブ島に到達した後、1494年にスペイン

とポルトガルが結んだトルデシーリャス条約でブラジルを除く新大陸（インディアス）がスペイン領有とされていたことから、1529年にはサラゴサ条約でフィリピン諸島はスペイン領有とされた。スペインはフィリピンをアジア進出の拠点とした。やがてスペインなどの航海者が来航するようになり、1565年にはスペイン領ヌエバ・エスパーニャ副王領（メキシコ）を出航したミゲル・ロペス・デ・レガスピ（初代総督）がセブ島を領有したのを皮切りに19世紀末までヌエバ・エスパーニャ副王領下の総督領としてのフィリピン支配が始まり、徐々に植民地の範囲を広げられた。1571年にはマニラ市を植民地首府として建設され、その後フィリピン諸島の大部分が征服されてスペイン領とされた。

*ミンダナオ島は1565年にセブ島に続いて征服されたが、1635年、スペインは周辺のイスラム系のスルー王国やマギンダナオ王国に対する防御のためにミンダナオ島西南部のサンボアング半島の先端のサンボアング地区にサンホセ砦（その後1718年にピラル砦に改称、現在のサンボアング博物館）を建設した。その際建設の中心となったスペイン人とメキシコ人によって労働力として周辺の各地や島々から人々が集められ、彼らの間にピジン語を経てスペイン語系のクレオール語であるチャバカノ語が発生した。チャバカノ語は400年の歴史を有する。

*その後、サンホセ砦は1645年にオランダの攻撃を受けたこともあったが、1661年に台湾から反清活動を展開していた鄭成功がマニラを攻撃したため、サンホセ砦のスペイン勢はマニラ防衛のため、サンホセ砦を一時的に放棄した。その後、スペイン人は1669年に砦を奪還している。

（2）チャバカノ語の語彙

*チャバカノ語の使用人口は約120万人、第1言語話者は61万人。チャバカノ語にはアンダルシア方面でしか見られない語彙や、メキシコの先住民のナワトル語の語彙が見られることから、アンダルシア出身のスペイン人やメキシコのナワトル語を話すメシーカ系先住民が到来していたものと推定される。また、2人称に“vos”が使用される場合もある。

*その後、サンボアングからチャバカノ語の話者が他の島への移住したため、それらの土地にチャバカノ語の分布地域が広がった。その結果、文法的に変形した派生語も存在する。

（3）チャバカノ語の分布

*チャバカノ語には6つの方言がある。サンボアングに Zamboaqueno 語（68万9000人）、ダバオ市に Davaoeno Zamboanqueno 語（1万8000人）、テルナテに Ternateneno 語（7000人、ポルトガル語源語彙もあり）、カイト市に Caviteneno 語（20万人）、コタバオ市の Cotabateno 語（2万人）、（マニラ市内の）エルミナ地区に Ermiteneno 語（消滅）が発生した。

*